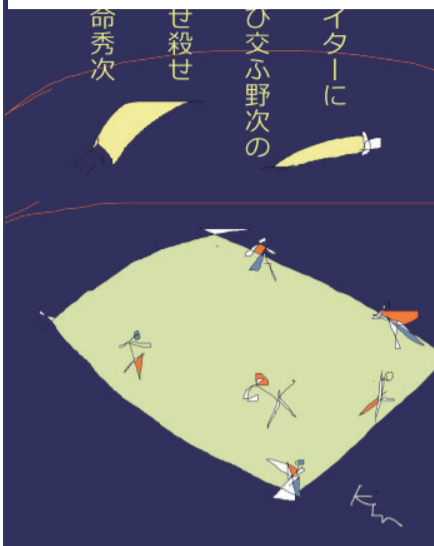


■今月の特選句

2022年11月



ナイターに飛び交ふ野次の刺せ殺せ

寿命秀次

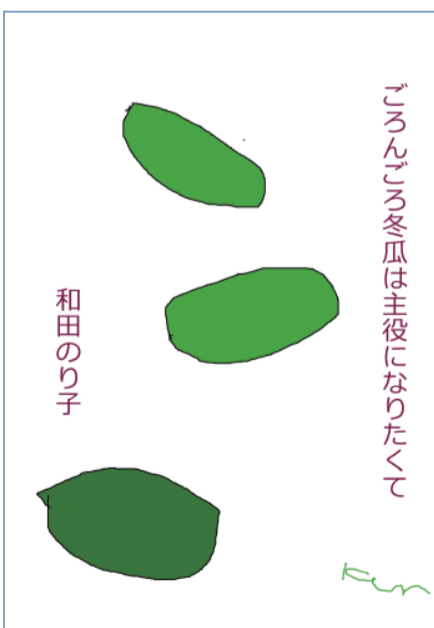
野球の用語は物騒だ。刺すは牽制球で走者を殺す。つまり走者は死ぬ。こんな野次が飛ぶのも平和があってこそ。ナイターは夏の季語。



たうがらし色艶ともに勝気なる

西野周次

赤唐辛子も青唐辛子も艶々と光っているね。あれは自信の表れなのだろう。作者の感性で「勝気」ととらえ擬人化したことで面白い句になった。



ごろんごろ冬瓜は主役になりたくて

和田のり子

冬瓜は夏に収穫するが冬まで保存でき、季語としては秋に分類される。大きさの存在感はあっても個性的な味はないから主役にはなれない。

■今月の特選句

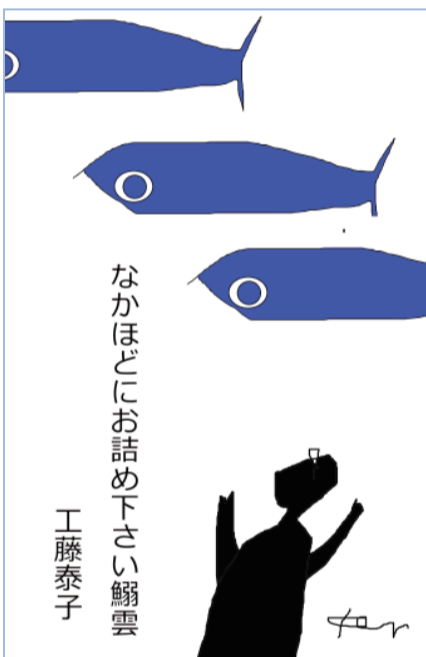
2022年11月



ひやとひの群れる淋しさ曼珠沙華

田中 勇

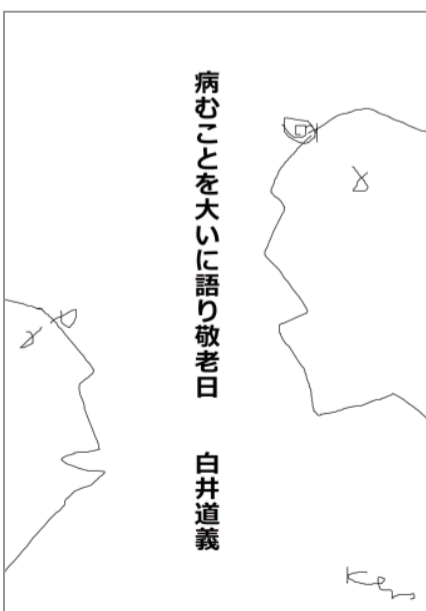
大勢の中において感じる孤独というものがある。華やかな花だがどこか寂しさの漂う曼珠沙華と、日雇い労働者の淋しさとが作者の中で重なった。



なかほどにお詰め下さい鰯雲

工藤 泰子

電車の通勤ラッシュ時に聞く車掌さんの声かけ。鰯雲は整然としているが、等間隔になれとかもっと詰めろと指揮する役の雲がいるのだろう。



病むことを大いに語り敬老日

白井道義

老人会の話題は病歴自慢とそれを如何に克服したかという有益な体験談である。大いに語る機会を与えられた老人は手応えと嬉しさで一杯。

■今月の秀逸句（・・・七七をつけてみました）

台風の列島縦断迷惑旅 ・・・毎年のこともう慣れつこさ	細川岩男
秋の風駝鳥の睫毛が好きらしい ・・・砂の嵐に悩んだ記憶	桑田愛子
朽ちるしかない失職の捨案山子 ・・・田んぼの隅のお払い箱で	井口夏子
平和ぼけとなっちはいぬか烏瓜 ・・・戦術核は発火寸前	久我正明
今年米余分なカロリー一構わずに盛る ・・・馬肥ゆる秋負けてたまるか	月城花風
秋から冬へ季節は急ハンドルを切り ・・・季節は急に曲がれるもので	木藤隆雄
残る蚊に刺され放題立ち話 ・・・いいね俺など蚊も寄り付かぬ	小笠原満喜恵
三日月の耳飾りビルの片耳に ・・・ファッションビルの仲間入りして	上山美穂
芋の葉の露お月様の贈り物 ・・・白銀色の玉のキラキラ	相原共良
封じたきもの多き世や南瓜煮る ・・・平凡といふ幸せしみじみ	竹下和宏
ニアミスや突っ込んで来る赤トンボ ・・・若い蜻蛉は暴走しがち	谷本 宴
売れ残りの柿に己れを重ねたり ・・・渋柿として生き抜いて行け	久松久子
「残暑ばて」季語に認定できまいか ・・・ビール飲みすぎ残暑ばてとは	花岡直樹

■今月の滑稽句

* 今月の特選句・秀逸句以外の佳句を青字で表示しています。

風の吹くままに蓑虫ゆれてゐる	相原共良
冥途への天蓋ならむ彼岸花	相原共良
湿布貼り薬飲み塗り生身魂	青木輝子
光源氏プレイボーイ渡り鳥	青木輝子
ダイエットさせられデビューの吊し柿	青木輝子
検診の結果むにやむにや菊脛	赤瀬川至安
案山子二体どちらもきつと大谷くん	赤瀬川至安
どしや降りをスパッと払ふ竜田姫	赤瀬川至安
曼珠沙華野辺を外れて乱れ咲く	井口夏子
コスモスのさびしさびしとゆれかはす	井口夏子
金魚死す喪主花ちゃんて幼稚園葬	池田亮二
老百態晩節未練の敬老日	池田亮二
飽き足らず木に這い上がる南瓜蔓	石塚柚彩
壊れないタンブラー届く敬老日	石塚柚彩
蜜柑の葉食べ尽くし去る青毛虫	石塚柚彩
秋彼岸の「中日」今年もびりなりて	伊藤浩睦
とんぼ来るくる鉛筆回し思案中	伊藤浩睦
新米と古米の違ひ知らぬ舌	伊藤浩睦
夜深しぼそぼそと食む落花生	稲沢進一
血圧はすこし下がりぬ天高し	稲沢進一
ダムばかりありて洪水台風来	稲沢進一
秋天の今日は鈍色空は鬱	稲葉純子
マネキンの装ひ新た秋の色	稲葉純子
秋気かな空気読むより吸ひ込みて	稲葉純子
台風裡在庫整理の冷蔵庫	井野ひろみ
栗の毬実は頭にて取り出せず	井野ひろみ
赤蜻蛉空の途中で足踏みの	上山美穂
うそ寒の私にやさしカーディガン	上山美穂
縁側の黒猫のびきり秋の午後	梅野光子
衣桁にかかる帯に色葉の刺繍かな	梅野光子
日めくりのひとめくりごとにひんやり感	梅野光子
トライ・アンド・エラーの歴史馬下げる	遠藤真太郎
煙草その働きは分解者	遠藤真太郎
腹落ちのせぬままなれど年貢納	遠藤真太郎
色無き風にゆるりゆるりと太極拳	大林和代
秋の空どっと値上げがやってきた	大林和代
初冠雪下界のマスクは色とりどり	大林和代

毛虫君曼珠沙華より草が好き
 還暦の顔が少女に棒アイス
 夕涼み夫婦揃うて茶碗酒
 蟬の子や地中の本能脱ぎ捨てたり
 行秋のバトンはしかと冬の手
 ダイエットしたのだろうか初秋刀魚
 専用のペンと一緒に日記買う
 日記買う書かない言い訳するけれど
 午前中日記を買って午後書いて
 パラダイスワンダフルサクランボ食む
 怒らぬと決めて見上げるうろこ雲
 コロナの世花火も観れぬ夏休み
 脚力が棚田を登る曼殊沙華
 マネキンは無口のままに秋を告げ
 飛び乗りてならずマリオの毒茸
 レンタルの着流し秋の渡月橋
 手の切れさうな刃物が怖い秋の真夜
 好々爺ふと見上げれば月煌々
 休暇明園児のぐづり乗車拒否
 品格を捨ててラムネのラッパ飲み
 消灯は十時きっかり長き夜
 枝豆やまたも破りし休肝日
 一人酒はらわた苦き秋刀魚かな
 校門に仕出しの届く運動会
 秋高しアクロバットの飛行隊
 ドクターヘリ帰りは稲田ひと回り
 私の夢も入れて下さい向日葵の種
 礼を言いながら堰外す晴れた日
 秋めくや暫くぶりの古本屋
 中秋の「お月見どろぼう」てふ町おこし
 秋分や虎造節の案内来て
 フルムーン月を眺めて露天風呂
 本堂に客の気配や茶立虫
 足一本ぐつと踏みしめ案山子かな
 想ひ出し笑いして行く秋日傘
 濁り酒五右衛門風呂の懐かしき
 虫の音や条件反射に鳴き始む
 おかしみのある音たてて秋の山

小笠原満喜恵
 小笠原満喜恵
 北熊紀生
 北熊紀生
 木藤隆雄
 木藤隆雄
 木村 浩
 木村 浩
 木村 浩
 金城正則
 金城正則
 金城正則
 久我正明
 久我正明
 工藤泰子
 工藤泰子
 桑田愛子
 桑田愛子
 壽命秀次
 壽命秀次
 白井道義
 白井道義
 鈴鹿洋子
 鈴鹿洋子
 鈴鹿洋子
 鈴木和枝
 鈴木和枝
 鈴木和枝
 高須賀溪山
 高須賀溪山
 高須賀溪山
 高田敏男
 高田敏男
 高田敏男
 竹下和宏
 竹下和宏
 田中 勇
 田中 勇

庭隅で夜伽してゐるちちろ虫
 幸せに呆けてにつこり菊の花
 あらばしり口にふくませ柩閉づ
 蜂の仔や蛋白質が足りてない
 待ち人は遅いですねと月の顔
 金木犀通り過ぎゆく鼻づまり
 初嵐する事も無くしりとす
 清水の舞台降りたら花野原
 どぶろくや死ぬ気などなき九十歳
 秋うらら金になる物みな磨く
 たちまちに齢を忘れる花野かな
 しやうもない話噛みしめ夜長かな
 引力に沿ふ贅肉や天高し
 道元忌おっちょこちよいの只管打座
 宵闇や泥棒稼業需要あり
 恋一途一意専心夜這星
 ウロコ雲日本列島のかたちして
 女子学生の声が弾めば天高し
 裏庭の柿の色葉でもてなせり
 稜線の襟を正して天高し
 稻雀手をたたいても知らんぷり
 拍子木に散り散りとなり椋鳥は
 束の間の宇宙遊泳昼寝覚
 蘭鑄のいつれ楊貴妃卑弥呼とも
 プロポーズびたりと決めて星月夜
 閉館の工場惜しみビール飲む
 すはバルタン星人なり蟬の顔
 換気せむ冷房効かせし部屋なれど
 露草のしたたかな根を持て余す
 冬の蠅見て見ぬ振りをされてをり
 豆柿や鳥に贅沢させてをり
 大暴れする台風に哀しい目
 鰯雲欠伸するたび一尾増え
 秋の夜のかけ放題の長電話
 竿の先蜻蛉は急にとまれない
 蔓の先とまりかねたる蜻蛉かな
 蜻蛉のての字くの字を描きて飛ぶ

田中早苗
 田中早苗
 田中早苗
 田中やすあき
 田中やすあき
 田中やすあき
 谷本 宴
 谷本 宴
 田村米生
 田村米生
 田村米生
 月城花風
 月城花風
 土屋泰山
 土屋泰山
 土屋泰山
 坪田節子
 坪田節子
 坪田節子
 長井知則
 長井知則
 長井知則
 西野周次
 西野周次
 花岡直樹
 花岡直樹
 浜田イツミ
 浜田イツミ
 浜田イツミ
 久松久子
 久松久子
 日根野聖子
 日根野聖子
 日根野聖子
 藤森荘吉
 藤森荘吉
 藤森荘吉

英国葬ロンドンの秋むせび泣き	細川岩男
秋茄子や焼くも揚げるも酒の当て	細川岩男
大雨が洗い上げたる秋の風	南とんぼ
なるようになるだけの事キリギリス	南とんぼ
かの国へスズメノテッポウ供与する	南とんぼ
秋刀魚食む減塩醤油たんと足し	峰崎成規
オーダーは手馴れぬアプリそぞろ寒	峰崎成規
星走る一度で切れる着信音	峰崎成規
きりぎりす君も吃逆(しゃっくり)止まらぬか	椋本望生
狂ひ咲き好き好き嫌ひ好き嫌ひ	椋本望生
小学六十年生藷が好き	椋本望生
帰省子の言の葉大きくなりけり	村松道夫
嫁姑分けて笑顔の秋茄子	村松道夫
虫時雨寝ぼけまなこの耳さます	村松道夫
空の海雲のうろこを敷き詰めて	森岡香代子
俗人の鼻曼珠沙華の貴品嗅ぐ	森岡香代子
弓張月休むときには力抜き	森岡香代子
今夕にかきあげとなる牛蒡引く	八木 健
ぐい飲みの猿酒喉に遊ばせる	八木 健
良く群れてまた来ておくれ赤蜻蛉	八木 健
台風の卵から今朝生まれたり	八塚一青
どなたでも宗派を問わず彼岸花	八塚一青
遠ざけた猫の居ぬ間に障子貼る	八塚一青
北風の潮騒濁音半濁音	柳 紅生
おでん酒黄身は白身に抱かれて	柳 紅生
文化の日三つ子の魂湧き上がり	柳 紅生
好きという選択肢に◎ラ・フランス	柳村光寛
マドンナ似寅さん風の案山子ショー	柳村光寛
紅葉鯛佐渡海峡に釣りおとす	柳村光寛
ドアアイまで蟻蛭(ばった)飛んだか登ったか	山内 更
欲張つて栗御飯といふより「ごはん栗」	山内 更
食べ頃の見極めむずかしラフランス	山内 更
山茶花の蕾と冬の支度かな	山岡純子
金木犀太鼓祭にほふ花	山岡純子
そうりゃそりゃ秋空に舞う勇姿かな	山岡純子
秋あかね全身赤を独り占め	山下正純
綿菓子のずらりと並び彼岸花	山下正純
まくわうりかじれば昔の音がする	山下正純

台風それで狼少年の予報官	山田真佐子
爽やかや二千円ぴったりのお買い物	山田真佐子
細胞が潤う梨のシャキシャキに	山田真佐子
玫瑰(はまなす)は他に隠れて花壇かな	山本 賜
てるかげる秋桜けっこう忙しい	山本 賜
吊るされたように動かぬ秋の蜂	山本 賜
ひとり居も長い電話も良夜なり	横山洋子
虫干しの樟脳匂ふ秋日和	横山洋子
朝寒やこつこつこつと靴の音	横山洋子
喉すべるそれも味覚やとろろ汁	吉川正紀子
楽しさう秋風抜けるローカル線	吉川正紀子
栗を剥く婆の手渋皮色をして	吉川正紀子
埒もなや高きにありて通草笑む	吉原瑞雲
横抱きにされて案山子の仕舞はるる	吉原瑞雲
「トラトラトラ」巨像に挑むいぼむしり	吉原瑞雲
山里の秋はかけ足蕎麦の花	渡部美香
小鳥来て胸のブローチうまくつく	渡部美香
朝露をまずは払はれ稲刈り日	渡部美香
リュック背負う「お月見どろぼう」する子らは	和田のり子
二合だけ炊く新米の頼りなさ	和田のり子